

平成医療福祉グループ

リハビリテーション部

採用案内

Recruiting
Information

あなたとつくるHMWリハビリテーション部



平成医療福祉グループ
HEISEI MEDICAL WELFARE GROUP



私たちの使命は、患者さん・利用者さんの QOL を追求すること。

つまり、病気や障がいがありながらも、自分らしく生きられることの実現です。

治療や障がい軽減に努める時も、この視点を大切にします。

一人ひとりが自分らしく生きるために何が必要なのか。

私たちは、考え、取り組み続けます。

平成医療福祉グループ Mission

じぶんを生きるを
みんなのものに

「じぶんを生きる」とは?

「じぶんを生きるをみんなのものに」——HMWの新しいMissionのもと、リハビリテーション部が目指す未来とは? 池村統括本部長が、新しいMissionと現場の変化、そして新たな挑戦について語ります。

——現場で新しいMissionが浸透していく過程で、職員からはどんな声がありましたか?

最初は「じぶんを生きる」とは患者さんのことなのか、それとも職員自身のことなのか、と戸惑う声もありましたが、少しずつ浸透し、最近は研修や話し合いの場でこのフレーズが自然に使われるようになりました。みんな、次第にこのフレーズを行動に結びつけられるようになってきたと感じています。「みんなのものに」というのは、医療者である職員一人ひとりがこのMissionを自分事として捉え、個人やチームとしての関わりの中で実践していくことを意味しているのだと思います。職員にとっては、このMissionをどのように進めていくかを各々で考える良い機会になっているのではないでしょうか。

——部として、このMissionをどのように具体化していく予定ですか。

これまで患者さんがなるべく早く、安全に在宅復帰できることを目指してリハビリテーションを提供してきました。しかし今後はその先、「ご自宅に帰った後、いかにその人らしく生きられるか」をより深く考えることが重要だと思います。在宅復帰後の過ごし方やご家族との関わり、仕事復帰後の周囲との関わりなどに着目し、個別性の高いリハビリテーションを提供していきたいと考えています。

——リハビリテーション部も新しいMissionを掲げるようになりましたね。

部の新しいMissionは、単に業務をこなすのではなく、自分の仕事が患者さんの人生を左右する責任を持つべきだということを意味しています。質の高いリハビリテーションを提供するためには、職員一人ひとりが自らを研鑽し、覚悟を持つことが求められます。当部では、さらにこのMissionに沿った新しいActionとValueを策定しました。これにより、職員が具体的にどのような行動をすればよいのかが、より明確になったと思います。



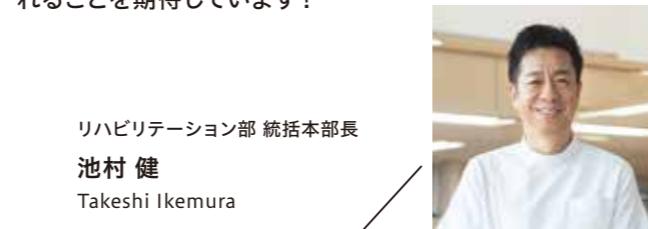
——リハビリテーション部の強みは?

若くて元気な職員が多く、チームワークが強いことですね。それに加えて、学術力、臨床力、組織力、発信力の四つを伸ばそうとしています。それぞれが自分の強みを発揮しつつ、全体として成長していくのが魅力だと思います。

——今後、どのような人が活躍できると思いますか?

Mission、Action、Valueを理解し、日々の仕事で実践できる人です。患者さん・利用者さんの「じぶんを生きる」をサポートしながら、自分自身も成長したいと思える人は、HMW全体でも頼りにされる存在になると思います。若い世代の職員も、新しいMissionを胸に、前向きに取り組んでくれることを期待しています!

リハビリテーション部 統括本部長
池村 健
Takeshi Ikemura



HMWリハビリテーション部の

Mission



人生に関わる覚悟を持って、
真剣にリハビリテーションを
実践します

リハビリテーションは、

患者さん・利用者さん一人ひとりの未来を考え、その人らしさを支える仕事。

その関わりが人生を左右するからこそ、覚悟と使命感を持つ。

リハビリテーションの本質に、私たちは真摯に向き合います。



1 知識の追究と技術の研鑽を忘れません

専門職として成長するためには、知識の習得と技術の向上が不可欠です。勉強会や研修会を積極的に活用し、自分たちのスキルを高めることで、現場でより質の高いケアを提供します。



4 多職種の専門性を理解し尊重します

多職種の知識を理解し、その専門性を尊重する姿勢が重要です。リハビリテーションの専門性を発揮するためにも、看護や栄養など他分野の理解を深めます。



7 対象者の想いを実現する関わりを続けます

患者さん・利用者さんの「やってみたい」「こうなりたい」という思いを尊重し、実現できる方法を模索し、一人ひとりに合わせた支援を模索し続けます。



HMWリハビリテーション部の

Value

絶対に見捨てない
リハビリテーション

HMWリハビリテーション部に根づく信念であり、これまででも、これからも、変わらない基盤となる概念です。

2 後進の育成を専門

これまでの経験で培った知識を後輩に伝えることは、専門職としての重要な責務です。指導を通じてチーム全体のスキルアップを図り、職場全体で互いにフォローし合う風土を育てます。

職の責務とします

5 社会人・医療人として
持ち続けます

挨拶や時間厳守など、社会人としての基本を大切にします。医療人として、患者さん・利用者さんの命に関わる責任感を持ち、日々の行動に反映させます。

ての自覚を

8 既存の枠にとらわれ
尊重します

あきらめる前に、まず挑戦する姿勢を大切にします。自由な発想や新たなアイディアを活かして、業務改善や新しい取り組みの可能性を探ります。

れない自由な発想を

3 実践した取り組み見える形にして
発信します

実践した取り組みは、蓄積したデータを活用して根拠を明確にし、目に見える形で発信します。学会発表や論文化などを通じて、HMW内外に知見を共有し、さらなる専門性の向上を目指します。

6 思いやと人間味のあるセラピストを
目指します

患者さん・利用者さんの立場に寄り添い、思いやりの心を持つことが大切です。人格形成を意識し、忙しい現場でも思いやりを忘れないセラピストを目指します。

9 チャレンジ精神を持って新しいことに
取り組みます

新しい分野への挑戦やキャリアチェンジを積極的に支援します。臨床研究や学会発表、地域活動、勉強会の企画など、職員からの提案を歓迎し、次のステップを後押しします。



HMWリハビリテーション部の

絶対に見捨てない
リハビリテーション

勇往邁進

若い力が中心となり、何事もあきらめず積極的に挑戦することで、明るく活気ある職場文化を築き、前向きに進んでいきます。

思いやりと感謝

患者さん・利用者さんへの思いやりを持つことはもちろん、上司や部下、多職種間でもお互いを尊重し、感謝の気持ちを持ち続けます。

私たちが、 HMWリハビリテーション部です！

運動機能の向上を支える理学療法士、ADL(日常生活動作)をサポートする作業療法士、そしてコミュニケーションや飲み込みを支援する言語聴覚士。私たちHMWリハビリテーション部は、それぞれの専門性を活かして、患者さん・利用者さんの希望を形にし、「じぶんを生きる」をサポートするチームです。



理学
療法士
(PT)

一歩踏み出して
みましょう



患者さんの喜びが 最高のモチベーション

ベッドから起き上がれなかつた方が、立ち上がるようになった。ケガで歩けなくなった方が、再び歩いて通勤できるようになった……。患者さん・利用者さんが日常生活を取り戻す瞬間に立ち会えるのは、私たちPTにとって大きな喜びです。

HMWリハビリテーション部には、PTとして成長するための環境が整っています。同じ目標に向かって進む多くの仲間とともに、患者さん・利用者さんの笑顔のためにがんばりましょう！

その人の「したい暮らし」を 実現するサポートを

ADLの回復や社会参加をサポートし、患者さん・利用者さんが自立した生活を送れるようにするのが私たちOTです。寝たきり、座らせきりにならないように、集団活動や自主練習などを提案します。「鉛筆を持って手紙が書きたい」「バスに乗って買い物に行きたい」など、目的はさまざま。ご希望をうかがい、個別性の高い作業療法を提供しています。

患者さん・利用者さんの気持ちに寄り添いながら、一緒により良い作業療法を考えていきましょう！

言語
聴覚士
(ST)

体調は
どうですか



作業
療法士
(OT)

ゆっくりで
いいですよ



気持ちに寄り添い 「話す」「聞く」「食べる」を支える

「話したいのに、言葉が出てこない」「家族と話せない」「食べたいのに、飲み込めない」……。病気やケガが原因で、当たり前にできたことができなくなるのは辛いものです。そのような患者さん・利用者さんのお気持ちに寄り添い、サポートするのがSTの仕事の一つです。

HMWでは発達期から老年期まで、幅広い患者さん・利用者さんのリハビリテーションに携わることができます。多様な経験を積むことで、STとしての専門性を高めましょう。



私たちの リハビリ ーション

私たちが追求するのは、
患者さん・利用者さんの
QOL向上です。
退院後「どんな暮らしがしたいか」
「何ができるようになりたいか」といった
目的に合わせ、個別性の高い
リハビリテーションを
提供します。

治療とリハビリテーションの流れ

(例:回復期リハビリテーション病棟の場合)

私たちは多職種でチームを組み、チーム医療を実践しています。
例として、回復期リハビリテーション病棟における
治療とリハビリテーションの流れを解説します。



入院前

入院初期

入院中～後期

退院

まずは患者さんの情報を収集します。病歴や検査結果、治療状況などの医学的情報はもちろん、社会的情報(ご家族の有無や介護保険の認定状況など)も得て、入院後のプランを検討します。

多職種でチームを組み、状態を評価します。患者さんのご希望やご要望をうかがってから目標を立て、それに対するギャップを探りながら、治療とリハビリテーションのプランを立案します。

経過を見て、再評価します。目標設定に無理がないか、患者さんの可能性を広げるため何ができるかを検討しながら、退院に向けて生活期(※)の職員にバトンをつなげる準備を進めます。

※ 主に在宅生活を送る方を対象に、日常生活の自立を支援し、QOL向上を目指す時期。

1

徹底した離床と 早期の歩行リハビリ

廃用症候群を徹底予防

長期間の安静は筋力と内臓機能の低下を招き、廃用症候群を引き起します。その解決の鍵となるのが早期離床です。私たちは多職種による「離床促進チーム」(p.22)を結成し、病棟ごとに離床コーディネーターを置いて、早期離床に尽力しています。



目的ある離床

単にベッドから起き上がるだけではなく、起きることが習慣となるような工夫をしています。レクリエーションの要素を組み込むことで、楽しみながら徐々に離床時間を見やせるようにしています。



一人ひとりに合わせた離床計画

入院前の生活リズムや日中の過ごし方は、人それぞれ異なります。そのため患者さんの入院前の生活状況や好きなことをうかがい、体調に配慮しながら状況に合わせて離床計画を組み立てます。



ただ「歩く」だけではない 目的を持った歩行リハビリ

拘縮・麻痺の改善と廃用症候群予防のために、入院早期の歩行リハビリは非常に大切です。ただ歩行機能を向上させるだけでなく、患者さんに合わせた目標を設定し、そのためには必要なリハビリテーションを提供しています。



多様な下肢装具とリハビリ機器

HMWでは状態や麻痺の程度に合わせて、下肢装具や多様なリハビリ機器を使用しています。「リハビリテーション安全推進委員会」(p.22)が常に新しい情報を収集・精査し、必要な機器はなるべく導入するよう心がけています。



2 | 嘔下機能の回復

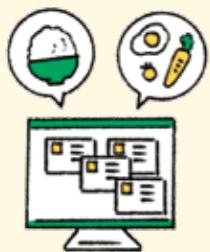
「口から食べる」可能性をあきらめない

嚥下機能が低下すると、食事ができず体力が低下します。HMWでは入院・入所と同時に嚥下機能を評価し、多職種で摂食嚥下リハビリテーションを実施します。「食べたい」気持ちに寄り添い、口から食べる可能性を追求し続けます。



電子カルテで患者さんの食事情報を管理

HMWの全病院・施設ではオリジナルの電子カルテを開発し、使用しています。診療情報はもちろん、食事摂取量の変化や食形態、食べ物の好みなども細かく記載し、情報を管理しています。



ミールラウンドの実施で患者さんにもっと寄り添う

STや管理栄養士を中心とした職員が食事の場を訪れ、食事の状況を直接確認する「ミールラウンド」を実施しています。体調や食事の摂取状況などを把握して、一人ひとりに合わせた食事を提供しています。



電気治療機器で喉の感覚・筋力向上

喉の筋力・感覚低下が原因で嚥下が困難になっている場合には、電気治療機器(ジェントルスティムやバイタルスティム)を使用して電気刺激療法を実施し、飲み込む力と感覚の強化に取り組みます。



365日「おいしい」献立を工夫

HMWの病院・施設では、365日毎日異なる献立で3食を提供しています。院内・施設内の厨房で手づくりの食事を調理し、温かい料理は温かく、冷たい料理は冷たいまま、最適な状態で提供しています。

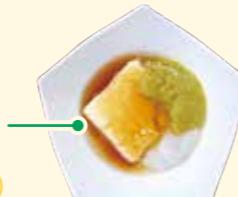


調整食にも順次対応

患者さんの嚥下機能や病状に応じて、適切な食事形態を選択するとともに、見た目や味にも配慮しています。

ソフトE食

飲み込む力が低下している方向け



舌だけで潰せるほど柔らかい

のどごしや舌触りがよい

ペースト食

噛む力・飲み込む力が低下している方向け



飲み込みやすいとろみがある

味わいが残っている

3 | 排泄機能の回復

自分の意思でトイレに行き、排泄することを目指す

排泄リハビリテーションの目的は、患者さんが自らの意思でトイレを利用し、排泄することにあります。患者さんの尊厳を重視するのはもちろん、QOL向上を目指して、多職種で連携しながら個別にサポートしています。



排尿リハビリテーションのプロセス

バルーン(膀胱留置カテーテル)のある方はまずは早期抜去を目指し、ない方は排尿自立を目指すトレーニングを実施します。排尿機能の改善に合わせ、おむつやリハビリパンツから布パンツへと、徐々に下着形態を変更していきます。



入院時、バルーンがある

YES

早期抜去を目指す！

抜去

- ・残尿測定器の活用
- ・自己排尿の訓練

NO

トイレでの排尿を目指す！

- ・トイレ誘導
- ・膀胱訓練
- ・骨盤底筋トレーニング

おむつ・リハビリパンツから布パンツへ

排便リハビリテーションのプロセス

失禁がある方には骨盤底筋を締めるトレーニング、排出が困難な方には骨盤底筋を緩めるトレーニングや全身運動などを実施します。改善状況に合わせて、下着形態を変えていきます。

骨盤底筋トレーニング

+

全身運動

おむつ・リハビリパンツから布パンツへ

4 | 言語機能の回復

一人ひとりの気持ちに寄り添う言語聴覚療法

言語機能に障害のある方の中には、「病前に比べてうまく話せなくて恥ずかしい」と感じ、言葉を発することを控える方も少なくありません。コミュニケーションの意欲を削ぐことなく、一人ひとりのお気持ちに寄り添います。



5 | ADLの回復

「どう暮らしたいか」に焦点を当てる

「また料理がしたい」「一人で買い物に行けるようになりたい」など、目標は人それぞれ。私たちは患者さん・利用者さんが目指す暮らしに焦点を当て、生活動作訓練をはじめとするさまざまな作業療法を提供します。

患者さんの主体性を高める

退院後、患者さんはご自身の心身と向き合い、主体的に行動することが重要ですが、それには入院中のリハビリ職員の働きかけが大切です。そのため私たちは意識的に働きかけを行っています。



6 | 先端機器の活用

必要な機器は積極的に導入

近年、リハビリ機器は目覚ましい進歩を遂げています。私たちはこうした機器を、職員の手だけでは補えない部分を補うために活用しています。患者さん第一の姿勢で、必要と判断された機器は前向きに取り入れています。

麻痺のリハビリテーションに、
BMI(Brain Machine Interface)を順次導入中。



写真提供:(株)LIFESCAPES

7 | さまざまな退院支援

退院後の生活をスムーズに

私たちは、患者さんが退院後に充実した生活を送れるよう、「社会復帰」と「在宅復帰」の二つの視点から支援を行います。「社会復帰」ではスムーズに公共の場所や職場に戻れるようサポートし、「在宅復帰」では自宅で安心して過ごせる環境づくりをお手伝いします。



社会復帰のためのサポート

お仕事や趣味の場、それに伴う移動、買い物といった日常生活はすべて社会生活といえます。患者さんが退院後も戸惑わず、スムーズに社会復帰できるよう、個別のサポートを実施しています。

自動車運転支援

運転の再開を希望される方には、状態に合わせた訓練を提供することも。関連機関と協力して運転の再開を目指します。



復職支援

退院後復職される方には、職場環境を調査して、ご本人と職場に環境改善のためのアドバイスを提供します。



買い物サポート

近所のお店での買い物に同行し、「商品を選ぶ」「かごに入れる」「会計をする」など、動作の練習を支援します。

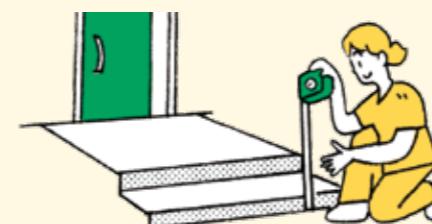


在宅復帰のためのサポート

ご自宅での生活に不安がないよう、入院初期から家屋訪問を行い、環境の確認や調整をサポートし、それに合わせてプランを立てます。退院後も訪問リハビリテーションを通じて、安心して在宅生活が送れるよう支援しています。

家屋訪問

患者さんのご自宅を訪問し、生活環境を調査します。玄関の段差の有無などを確認し、それらの情報を基に最適なリハビリ計画のための準備をします。



訪問リハビリテーション

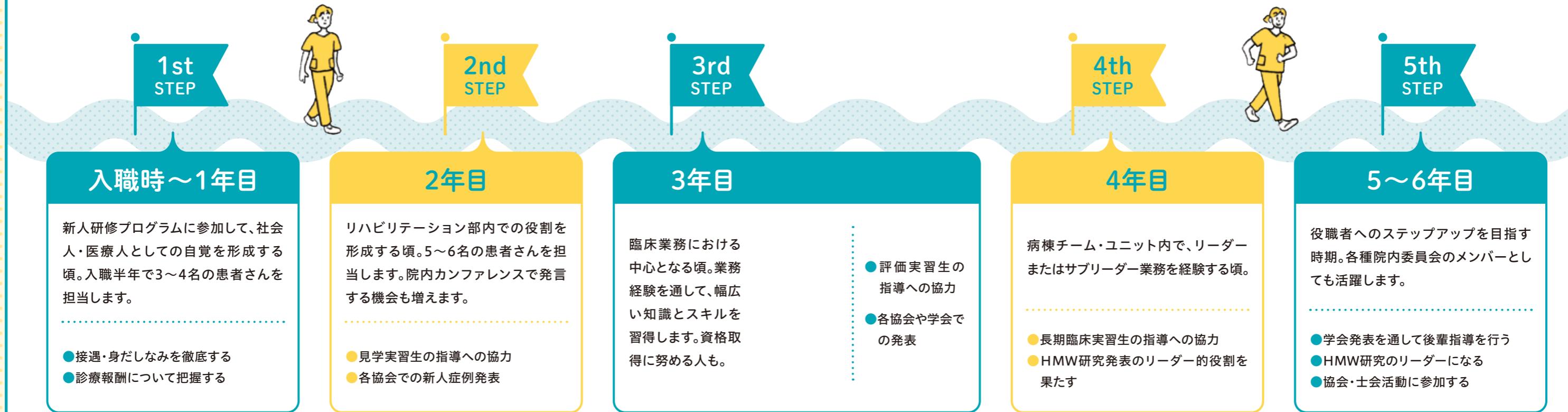
患者さんがご自宅で自立した日常生活を送れるよう、定期的に訪問し、リハビリテーションを提供します。ご本人のやりたいことや生きがいを重視します。



*病院・施設により支援の内容は異なります。

さまざまな教育支援プログラム 新人時代からサポート!

私たちHMWリハビリテーション部は、職員一人ひとりの成長を支える多彩な教育支援プログラムを用意しています。キャリアのスタートから熟練期まで、学びと挑戦を通じて新たな可能性を広げていける環境を整え、みなさんの未来を力強く後押しします。



【資格手当対象の一部】
三学会合同呼吸療法認定士／心臓リハビリテーション指導士／糖尿病療養指導士／認定理学療法士／認定作業療法士／認定言語聴覚士／日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士／専門理学療法士／専門作業療法士／修士号／博士号

さまざまなキャリアプラン

- スキルアップしてスペシャリストを目指す道や、マネジメントスキルを身につけて役職者を目指す道も！ 病院・施設以外(HMW本部や訪問リハビリなどで働くこともあります。



6th STEP

7~9年目

役職者として、他部署や他病棟チームとの連携・調整を行う頃。HMWリハビリテーション部の委員会活動や研究チームにも参加します。

- チームリーダーの育成を行う
- 協会・士会活動で役割を担う
- 他院をヘルプする

7th STEP

10年目以降

院内で要職を担当する頃。HMWリハビリテーション部の委員会活動や研究チームの主軸を担います。

- 地域とのつながり強化に努める
- 役職者は次候補者の育成
- 他院との研修、異動の促進・調整役を担う



チーム・委員会での活動

HMWの教育制度



役職者向け研修

組織全体を牽引する上級管理者向けの研修プログラム。戦略的な意思決定力、リスクマネジメント力、全体の成長を促進するためのリーダーシップを強化します。経営視点での課題解決や、部門間の調整力を高め、持続的な組織成長を支える力を養成します。



がんばる人をサポートする HMWの取り組み

HMWは、職員のがんばる気持ちを支えるための取り組みを続けています。新しい知識や技術を学びたい、成長したいという思いをしっかりと受けとめ、一緒に歩んでいく仲間として、サポートの場を広げています。

\職員の研究・論文執筆をサポート！/

平成医療福祉グループ
総合研究所(HMW総研)

職員に対して研究指導や論文作成の支援を行い、学術誌に掲載できるレベルの研究にすることを目指して、2022年に発足しました。論文掲載への報奨金の制度も設けています。HMW全体で保有しているデータを連結した大規模な回復期・慢性期の研究用データベースを使った独自の研究や、大学や民間企業との共同研究を実施しています。

HMW総研の
詳細はこちから！

\日々の成果を発表するチャンス！/

平成医療福祉グループ学会

各分野の研究成果や課題を共有する場として、年に一度、学会を開催しています。多くの職員が参加し、それぞれ技術やサービスの向上、意識の向上に努めています。優秀な演題は表彰され、全国学会での発表につながるほか、研究費が支給されることも。HMW全体で、研究の継続と活性化を応援しています！

2024年度の
学会レポートは
こちから！

\業界内外のこと学んで、視野を広げる！/

HMW大学

HMWでは、優れた医療福祉職となるためには、専門領域を越えて視野を広げ、社会全体を考えることが重要だと考えています。そこでスタートしたのが、オンラインセミナー「HMW大学」。毎回、業界内外から多様な講師を招き、充実した楽しい時間を提供しています。職員だけでなく、誰でも無料で参加できます。

HMW大学の
アクセスは
こちから！

\より良いチームをつくる！/

HMW合宿

職員同士の対等な対話文化の醸成と、現場のチームワークの強化を目的として、「HMW合宿」を開いています。病院・施設を離れ、自然の中で過ごすこと、職種間の壁を取り払い、人と人としての関係性を深めて、チームの質を向上させることを目指します。



活躍のフィールド

病院や介護施設、訪問リハビリなど、それぞれのフィールドには個性があり、異なるかたちで患者さん・利用者さんを支えています。ここでは、それぞれの特性を紹介します。

01 病院

HMWには26の病院があり、回復期・慢性期医療を中心に、地域に必要とされる医療を提供する「地域密着型多機能病院」を目指しています。患者さんの機能維持・向上のため、さまざまなりハビリテーションを提供します。

病棟

主に、回復期・慢性期医療における3種類の病棟を運営しています。

●回復期リハビリテーション病棟

急性期治療を終えた患者さんが、在宅復帰を目指してリハビリテーションに集中する病棟です。

●地域包括ケア病棟

急性期病院や自宅からの入院を受け入れ、自宅へ戻るまでの期間をサポートします。病状の安定を図り、介護や在宅医療への移行を支援します。

●医療療養病棟

長期的に医療ケアが必要な患者さんが入院する病棟。慢性的な病気や障害の管理が必要な方に、安定した医療と介護を提供します。



外来

HMWの外来リハビリテーションには、小児から高齢者まで幅広い層の患者さんが訪れます。リハビリテーションへの探究心と情熱を欠かさず、小児リハビリやスポーツ障害リハビリなどの専門的な知識の取得と技術の向上に努めています。



デイケア

通所(デイケア)では、利用者さんが抱える在宅生活での悩みに一つひとつ丁寧にアプローチしています。機能回復の練習はもちろん、外出によるリフレッシュを通じて、楽しみながらリハビリテーションに取り組んでいただけるよう努めています。



02 施設(高齢)

高齢者施設では、利用者さんができる限り自立した生活を送れるよう、日常生活に密着したリハビリテーションを行います。一人ひとりの状態や目標に合わせたりハビリプランを実施し、安心して生活を送れるよう支援しています。



特養

特別養護老人ホーム(特養)では、主に生活動作の維持や向上を目指します。日常的な動作の練習や介助の工夫を通じてサポートします。



老健

介護老人保健施設(老健)では、在宅復帰を目指して、身体機能の回復や体力の向上を図るリハビリテーションを提供しています。



03 施設(障がい)

利用者が自分らしい生活を送れるようにすることを目的に、身体的なケアだけでなく心のケアにも配慮しながら、一人ひとりのニーズに応じた多様な

支援を行っています。また、地域との連携を深め、インクルーシブな社会の実現に向けた取り組みを積極的に進めています。



04 訪問事業

利用者が住み慣れた場所で安心して生活を続けられるよう、お住まいに訪問してリハビリテーションと医療ケアを提供します。ご本人とご家族の負担を軽減しながら、心身の健康をサポートすることで、誰もが自分らしく生きられるお手伝いをしています。



訪問リハビリテーション

看護・介護・リハビリテーション・居宅の職員が常駐する訪問ステーション「てとてと」を展開し、週に1~2回利用者さんのご自宅を訪問して、安心・安全な在宅生活をサポートしています。



リハビリ職として、多職種で連携しながら、利用者さんとそのご家族にとって最適なサービスを提供できるよう努めています。



在宅医療・訪問診療

患者さんとご家族の幸福を最大化し、「じぶんを生きる」を支えるために設立されたのが、在宅医療・訪問診療のクリニック「おうち診療所」です。患者さんが住み慣れた自宅で安心し

て療養生活を送ることはもちろん、地域の医療におけるハブ（中継役）となることを目指し、HMWの病院や施設を含む近隣の医療機関・施設との連携を強化していきます。



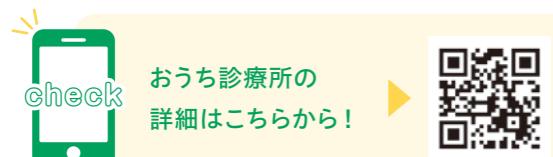
▲おうち診療所 二俣川(神奈川県横浜市)



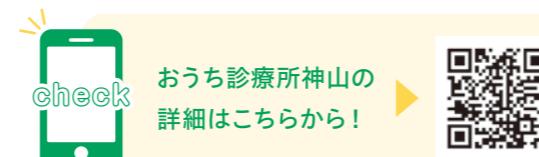
▲おうち診療所 国分寺(東京都国分寺市)



▲おうち診療所 神山(徳島県名西郡)のメンバー。神山には小児科外来も設置



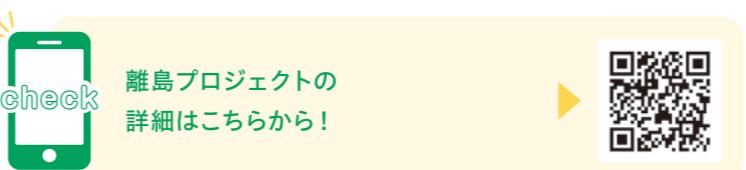
おうち診療所の
詳細はこちから!



おうち診療所神山の
詳細はこちから!

05 畦島

HMWの「離島プロジェクト」は、医療リソースが限られる東京都の離島にリハビリ職員を派遣し、訪問リハビリや在宅支援を行って、地域住民の健康とQOL向上を目指す取り組みです。島のみなさんが住み慣れた地域で安心して生活できるよう、サポートしています。



写真提供:利島村

私たちが
がんばっています!



06 海外

インドネシア・ジャカルタにHeisei Rehabilitation Clinicを立ち上げました。インドネシアでは脳卒中の患者さんが多い一方で、リハビリテーションの普及は不十分です。現地のリハビリ職員を育成し、共にHMW式リハビリテーションの普及と、必要とされる医療の提供を目指します。



07 学校

HMWは教育機関として養成校を運営しており、知識や技術の指導だけでなく、人間性を高める教育に力を入れています。HMWのリハビリ職員の中に

は、講師として教壇に立つ人も。臨床で培った知識を指導に生かし、学生教育を通じて自身も成長する機会を得ています。



平成リハビリテーション専門学校(兵庫県西宮市)▲

C さまざまなチーム

病院・施設内でチームを結成し、さらにHMWのほかの病院・施設のチームとも連携し、一体となって研究や研修を実施しています。横のつながりを大切にしながら、専門性の向上に努めています。

PTチーム

HMWのPTの専門性向上を目的に結成されたチームです。HMWに所属するPTは約1000人と大規模ですが、所属組織を超えたつながりを持つことで一つのチームとなり、より良い理学療法の提供を実現しています。



OT推進チーム

作業療法の専門性と可能性を追求し、質の高い作業療法を実践するためつくられたチームです。患者さん・利用者さんの意思決定を尊重し、作業を通じてその人らしい生活を取り戻せるように、チームとして全力でサポートします。



ST推進チーム

摂食・嚥下機能が低下して食事ができなくなると、口から栄養を摂れなくなるだけでなく、食べる楽しみも失われてしまいます。このチームではSTが中心となって入院早期からアプローチを行い、機能を評価し、訓練を進めます。



排泄リハビリチーム

在宅復帰を果たすために特に重要なのが、排泄の自立です。このチームは、患者さんが自らの意思で自らトイレで排泄を行うという当たり前の行為を行えるように、入院早期から一人ひとりに合わせた排泄リハビリを提供しています。



離床促進チーム

離床時間をできる限り延ばし、患者さんの心身機能の改善やQOLの向上を目的としたチームです。季節の行事や作業活動など、楽しみを目的とした活動を取り入れながら、患者さんの主体性を高めつつ、離床を促進しています。



ホームワークチーム

さまざまなホームワーク（自主練習）を考案・提供するチームです。患者さん一人ひとりが高いモチベーションを持って楽しくホームワークに取り組み、生活の中で「したいこと」や「できること」を達成できるよう支援しています。



小児リハビリチーム

運動や言葉の発達が気になるお子さんや、重度の知的障がい・身体障がいのあるお子さんのリハビリテーションと成長を支援するチームです。個別訓練を通して発達を促し、生活の中でできることを少しづつ増やしていきます。



フレイル・サルコペニアチーム

日々の臨床にフレイル・サルコペニアの評価や治療の視点を取り入れ、患者さん・利用者さんのADLおよびQOLの向上を支援することが、このチームの使命です。実態を正確に把握し、研究を通じて適切な介入方法を明らかにしています。



C さまざまな委員会

部内の全職員が情報を共有し、協力して業務を遂行できるよう、各種委員会を設置しています。委員会のメンバーは病院・施設を越えて構成され、定期的にカンファレンスを開催し、活発に活動しています。

リハビリテーション 安全推進委員会

安全なリハビリテーションを行えるよう、事故防止のマニュアル作成や研修を実施しています。これまでに起きた事故の分析を行い、HMW全体に共有するほか、学会・論文発表など、外部に向けた発信も行っています。



委員長
中西 秀人

【活動内容】
医療事故防止、リハビリ機器・治療機器の把握と情報収集、マニュアル作成など

総務委員会

職員の働きやすい環境をサポートする委員会です。部全体の配置表や情報（異動情報、求人情報）の管理、広報活動（パンフレット・ホームページ制作）など、全体の動きを把握し、人事情報をスムーズに管理・共有しています。



委員長
畠中 仁志

RDA 委員会

Rehabilitative Data Analysis（リハビリテーションに関するデータを集積し、分析する）委員会です。目まぐるしく変わる医療・介護制度に対応し、各病院がより包括的な戦略を选べるよう支援します。



委員長
柳本 麻里

【活動内容】
リハビリテーションに関するデータの集積・管理・分析、各種研究チームのデータサポート

教育研修委員会

職員の育成を目的に、さまざまな教育研修を実施しています。学習内容を段階別（1～5年次）に整備し、さらにeラーニングを活用した受講環境の整備も進めています。今後も、内部の教育環境をより一層整えていきます。



委員長
西村 卓也

【活動内容】
リハビリ職員の育成、教育・研修に関わる業務全般

学術委員会

各種学会での発表や専門誌への論文投稿など、研究活動に取り組むための体制づくりを行い、自己研鑽を支援しています。日々の業務の中から得られるヒントを活かし、それをまとめて研究活動へつなげられるようサポートします。



委員長
長谷川 捷斗

【活動内容】
各種学会での発表・論文投稿など、研究活動のサポート

HMWの働き方

休日・休暇

4週8休・年間休日110日(季節休日3日含む)、有給休暇:初年度10日(最高20日)、慶弔休暇・産前産後休暇・育児休暇・介護休暇

支援プログラム

△ 淡路島の合宿所は、福利厚生施設として利用できます！

HMW学会参加可、各種研修会、外部研修費用全額補助(規定あり)、HMW合宿所(淡路島)、研究活動サポート、資格取得サポート



福利厚生

各種保険完備(健康・厚生・雇用・労災)、同性パートナーシップ制度、時短勤務制度、職員食堂(管理栄養士監修)完備、福利厚生サービス「福利厚生俱楽部」(宿泊施設・スポーツ施設・リラクゼーション施設等の利用時優待)、人間ドック利用補助制度(規程あり)、外部カウンセリングサービス、無料託児所(施設による)、送迎バス(施設による)、マイカー通勤可(施設による)



▲職員食堂(平成横浜病院)

病院・施設により規定や待遇が異なる場合があります。くわしくは各施設にお問い合わせください。



HMWでは、みなさんが安心して働けるよう、充実した福利厚生やサポート体制を整えています。

ワークライフバランスが取りやすい！

年間休日
110日

年間休日110日を確保し、ワークライフバランスが取りやすい環境を整えています。リフレッシュしながら働くので、プライベートや自己研鑽の時間も充実させられます。

残業少なめ！
月平均所定外労働時間1.6時間

月平均の所定外労働時間は1.6時間。残業を最小限に抑えられるよう、効率的に業務を進められる体制づくりに努めています。



平均有休取得日数12日
有休取得率高！

平均有休取得日数は12日。オンとオフの切り替えを大事にしながら、充実した毎日を過ごせます。休むときはしっかり休む、そんな働き方をサポートしています！

プライベートも楽しむ！
さまざまな福利厚生サービス

福利厚生サービス「福利厚生俱楽部」を利用し、休暇をより充実させるサポートを行っています。HMWは「ハタラクエール2024(※)」の優良福利厚生法人・部門賞(地域法人部門)に認証されており、働きやすい職場環境づくりに尽力しています。

※福利厚生の充実に力を入れる法人に与えられる認証。

働くママ・パパをサポート！

産休・育休取得率
女性100% 男性67%

育休取得率が高く、多くの職員が家族との時間を大切にしています。男性社員の育休取得も進んでおり、職場全体で育児を支え、育児とキャリアの両立をしっかりサポートします！

育休後復帰者
多数！

復帰後もキャリアを継続しやすい環境を実現しています。男女問わず、子育てと仕事を両立できるよう職場全体で支え合い、一人ひとりが活躍できる職場づくりを大切にしています。

病院・施設に
託児所併設！

多くの病院や施設に託児所を併設し、子育て中の職員をしっかりサポートしています。実際に多くの職員が利用しており、勤務中も子どもの近くにいられる安心感が大きな魅力です。

小学校卒業まで
時短勤務可能！

お子さんが小学校6年生まで、時短勤務を選択できます。成長に寄り添う大切な時間を確保しながら、自分らしく柔軟に勤務する環境が整っています。

もっと自分らしく働ける



リハビリ職員利用実績あり! 同性パートナーシップ制度を導入

すべての人が平等に尊重される社会の実現を目指し、その一環として同性パートナーシップ制度(※)を導入しています。LGBTQ+の当事者も安心して働ける環境づくりに取り組んでいます。
※同性カップルを婚姻に相当する関係と認める制度。配偶者がいる場合と同様に特別休暇や慶弔休暇などの利用が可能となります。

 LGBTQ+に関する取り組みを評価する「PRIDE指標2023」にてブロンズ認定を受けました!

ジェンダー・ギャップゼロへ! 女性役職者割合48%

性別にとらわれない公平な評価と環境の整備により、役職者の約半数が女性となりました。多様な視点を活かし、ジェンダー・ギャップの解消に取り組み、持続可能な未来を築いていきます。



介護・看護との両立も

介護・看護休暇取得者数 多数!

仕事と介護・看護の両立を支援するため、柔軟な休暇制度を整えています。多くの職員が介護・看護休暇を活用し、家庭とキャリアのバランスを取りながら安心して働ける環境が整っています。

相談専用窓口の設置も!

外部カウンセリング サービス&ホットライン

仕事や私生活の悩みを専門家に相談できるカウンセリングサービス制度を導入して、職員の心の健康をサポートしています。また、ハラスメント対策として「ホットライン」を設置。外部の法律専門家からアドバイスを受けられる体制も整えています。



HMWは、働きやすい環境づくりにこれからも取り組み続けます。



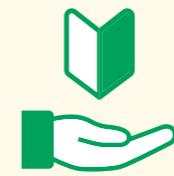
HMW人事部の取り組みの
詳細はこちから!



Voice リアルな声をお届けします! 働く人の声

HMWリハビリテーション部で働く
リハビリ職員に、
HMWの好きなところを聞いてみました。

新人教育が
確立している。



自立するまでの
サポートが手厚い!

(ST・1年目)

縦のつながりだけでなく、
横のつながりも多い。

(PT・9年目)

育児休暇や有給
など、部署が協力的で
取りやすい。

(OT・13年目)

職員食堂が
おいしい!

栄養バランスバッチリ!

多くのことを経験できる。
回復期から在宅まで、

チャレンジできる環境。

失敗しても
リカバリーさせてくれる
寛容さがある!

(OT・15年目)

小学6年生まで時短
勤務ができるので、
子どもの受験をサポートできた。

(OT・16年目)

認めてくれる。
自分のやりたいことを

認め
てくれる。

(ST・12年目)

ハラスメントに対する
意識が高い。

男性も育休を取りやすい。

(PT・14年目)

意識の高い職員に引っ張られて、
自分もレベルアップできた!

(OT・18年目)



定期的に学びの機会
(勉強会)がある。

(PT・2年目)

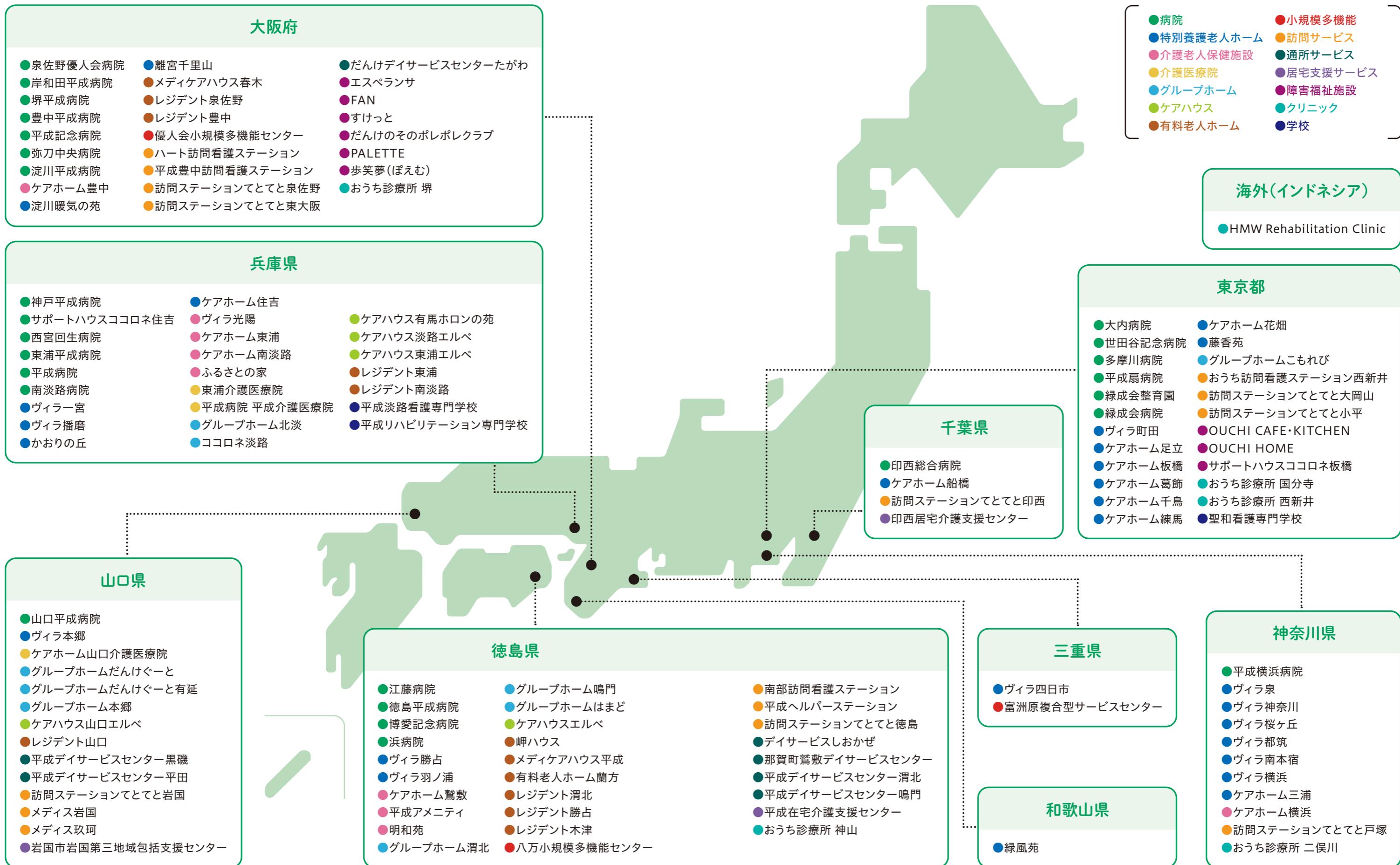


明るい職場。
質問や相談がしやすく、

(OT・1年目)

HMW Group Map

HMWは、回復期・慢性期医療を中心に、全国各地で病院・施設・学校を運営しています。
近年では、在宅医療や地域医療に力を注ぐとともに、海外事業にも積極的に取り組んでいます。



平成医療福祉グループの
仕事の魅力とは？

WebサイトやSNSをCheck!

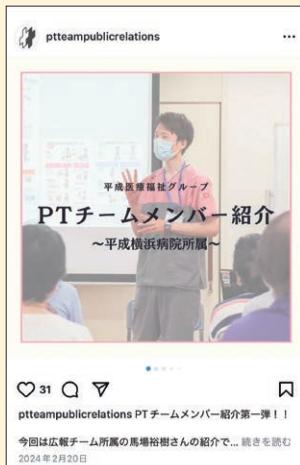
「目的ある離床」を目指して。
寝たきりを防ぎ、
入院生活のQOLを向上する。
(グループサイト・インタビュー記事)



ST採用サイト



Instagram
(リハビリテーション部PTチーム)



X
(OT推進チーム)



＼平成医療福祉グループの情報はこちから！／

Webサイト



SNS



リハビリテーション部の
情報はこちから！

採用に関するお問い合わせはこちら

